

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
平成28事業年度の業務実績に関する
全 体 評 価

平成29年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」はS評価（特筆すべき進行状況にある）、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する目標」のいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。

② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、カリキュラムマップの点検、学修の評価指標の整理、ポートフォリオの活用等、学修成果を適切に把握するための取組を進めるとともに、音楽科のコース再編等、学修ニーズに応える魅力あるカリキュラム編成に積極的に取り組んでおり、学生の確保（学科志願者数2年連続で過去最高を更新）や高い就職率など成果が現れていること。

第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭の大会テーマ「おおいだ大茶会」のロゴマークに学生の作品が採用されるなど、学生による地域の課題解決に貢献する取組も行われ、展覧会・演奏会・サービスラーニング等の地域貢献活動の充実が第三者評価専門機関からも高い評価を受けていること。

<委員会からのコメント>

芸術系の公立大学、そして短期大学、という全国でも稀有な存在感は益々高まっている。

少子高齢化や地域コミュニティの緩やかな崩壊といった喫緊の社会課題へ向け、芸術文化の力や学生ボランティア支援を用いた都市再生、地域創成事業へ実践的に活躍できる人材育成や大学としての社会貢献・社会連携事業が期待されている。

大分県立芸術文化短期大学に対する県民からの期待も増大する中、旧来の芸術教育の考え方や方法を超えることも必要であり、大胆な発想や新たな観点から芸術文化の社会的効果や潜在力を活用する教育実践が求められていく。そのため、数多くの課題を有する地域社会との連携強化や教育手法の改善が求められる。

大分県立芸術文化短期大学では、既に総合的な観点から学生の成長を促すと同時に、地域社会へ向け適切な社会貢献や社会連携を生み出す産官学マネジメントも進めているが、これまで以上に独創的な事業立案や推進体制の内的充実化が必要になっていくと考える。さらに大学の国際化も必須であり、近い将来の国際活動化や海外留学生の積極的な獲得を通して国際的に汎用性のある人材育成や社会貢献を構想していく時期も到来していくと考えられる。

中期目標で挙げた「芸術と文化に関する専門的な知識と技能、総合的な判断力と課題解決力、社会で活躍する実践力を持った人材を育成する」を軸としながら、今後とも教育研究等の質の向上へ向けておおいに研鑽されることを期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価及び情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
平成28事業年度の業務実績に関する
項目別評価

(大項目評価)

平成29年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、40項目（ウエイト考慮後59項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②カリキュラムマップの点検、学修の評価指標の整理、ポートフォリオの活用等、学修成果を適切に把握するための取組を進めていること。
- ③人材の養成の充実に向けた音楽科のコース再編の実施、専攻科の進路の拡大を図る中学校一種免許の取得の教職課程の準備等、学生のニーズを捉えた見直しを図っていること。
- ④学生の進路について、企業の採用活動の変化がある中で、教職員が状況の把握、学生支援に適切に対応し、98.4%と前年度を大きく上回る就職率と達成するとともに、進学率も前年度に続き高い水準を維持したこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・カリキュラムマップを活用した教育課程の点検を実施するとともに、学修の評価指標を8つに整理した。ポートフォリオによる学修成果の把握は、大学基準協会による認証評価でも高い評価を得た。
- 教育の実施体制
- ・高校別の志願者数を分析した上での高校訪問、動員数などのデータに基づいて選定した進学ガイダンスでの広報活動、入試広報専門員によるきめ細やかな広報活動等、多様な手法による学生募集活動が志願者数の増加につながった。
 - ・国際総合学科において、県、大分市、OPAMなどと連携して「文化ビジネス実習」を開講し、芸術文化事業の企画立案演習をワークショップ形式で行なった。
 - ・情報コミュニケーション学科において、各コースで、大分トリニータ若者集客大作戦やサイバーボランティア活動など、サービスラーニングのプログラムを実施し、さらに多様で専門的な活動を充実させた。
- 学生への支援
- ・進路支援ミーティングでの検証により、企業の採用活動時期の変更等に対応できた結果、平成28年度の就職率は98.4%、進学率は98.2%と、いずれも目標値の90%を上回った。
- 地域社会への貢献
- ・第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭の大会テーマ「おおいた大茶会」のロゴマークに学生の作品が採用されるなど、学生による地域の課題解決に貢献する取組も行われた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施していない	II 十分に実施できていない	III 順調に実施している	IV 上回って実施している
教育	29(15)			13(7)	16(8)
研究	4(1)			2	2(1)
社会貢献	7(3)			3	4(3)
合計	40(19)			18(7)	22(12)
ウエイト考慮後の合計	59			25	34

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、40項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・公開講座、市町村、各団体との協働、サービスラーニングによる文化活動や地域づくり、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団との連携事業等、様々な取組が社会貢献となっており大いに評価できる。
- ・各学科ともしっかりとした目標のもと、確実に成果が挙げられている。また、地域貢献活動が益々活発になり、地域でなくてはならない存在になっている。
- ・学修評価指標が的確に分類、整理され、学生への指導に効果が期待される。
- ・学生募集も効果的に行われ、昨年を上回る成果が上がっている。
- ・就職率、進学率も過去最高の実績を達成している。
- ・多くの項目において、年度計画の実施による実質的成果を上げている点において評価できる。
- ・現在のわが国は、著しい少子高齢化や地域コミュニティの緩やかな崩壊といった喫緊の社会課題を多く抱えており大分県も例外ではない。そうした社会的課題へ向け、芸術文化の力や学生ボランティア支援を用いた都市再生や地域創成事業へ実践的に活躍できる人材育成や大学としての社会貢献事業・社会連携事業が期待される折、貴学に対する県民全体からの期待も増大していると考えられる必要がある。そのためには旧来の芸術教育の考え方や方法を超え、新たな発想や観点から芸術文化の社会的効果や潜在力を活用する教育実践が求められる。その中でも数多くの課題を有する地域社会との連携強化や教育手法の改善は喫緊の課題をなす。貴学では総合的な観点から学生の成長を促すと同時に、地域社会へ向け適切な社会貢献や社会連携を生み出す産官学マネジメントも求められる。そのために独創的な事業立案や推進体制の内的充実化も期待される。また大学の国際化も必須であり、近い将来の国際活動化や海外留学生の積極的な獲得を通して国際的に汎用性のある人材育成や社会貢献を構想していく時期も到来していく。中期目標であげられた「芸術と文化に関する専門的な知識と技能、総合的な判断力と課題解決力、社会で活躍する実践力を持った人材を育成する」ため、教育研究等の質の向上へ向けて今後ともおおいに研鑽されることを期待する。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、19項目（ウエイト考慮後23項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②教職課程の充実を図るための教員の採用に加え、今後のコース再編等を向けた教員採用計画を検討するなど、限られた定員の中での必要の人員の確保に取り組んでいること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 運営体制
- 既卒者の早期離職の状況を把握し、対策を講じるようとの役員提言を踏まえ、平成29年度に相談窓口を設け課題解決に取り組むこととした。
- 人事の適正化
- 教職課程充実のため、平成28年度に音楽科教育法の教員を採用するとともに、30年度以降に専攻科を含めた教職課程の充実及び美術科・音楽科のコース再編等を図ることとし、教員採用計画を検討した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	10			5	5
人事の適正化	5			4	1
業務の選択と集中	4 (4)			1 (1)	3 (3)
合計	19 (4)			10 (1)	9 (3)
ウエイト考慮 後の合計	23			11	12

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、19項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 音楽の中学校教諭一種免許取得ができれば、大学の幅が広がる。
- 学長のリーダーシップのもと、外部の方々の多大なる支援を受けながら、学内スタッフの業務運営の改善及び効率化に関し、適切な成果が導き出されているものと評価する。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、9項目（ウエイト考慮後10項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備について、整備予定施設の機能を活かして国の交付金事業に指定されることにより、財源の確保に努めたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 事項収入及び外部資金の確保
- 本学の芸術デザイン棟整備事業が「クリエイティブ産業創出拠点整備計画」として、内閣府の地方創生拠点整備交付金対象事業に指定され、事業費の1/2、4億6千万円が国から交付されることとなった。
 - 大分第九を歌う会などの文化活動や各種試験、地域住民のグランドゴルフなど、大学施設を開放して地域社会に貢献するとともに、有料の利用回数も前年度から増加している。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	3			3	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3(1)			2(1)	1
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	9(1)			8(1)	1
ウエイト考慮 後の合計	10			9	1

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 職場改善の諸施策の水準引き上げを期待する。
- 外部資金の獲得で芸術デザイン棟整備事業が、地方創生拠点整備交付金対象事業に指定されたことは、大きな成果。
- 財務内容の改善に関しては、学長のリーダーシップのもと、学内スタッフの改善及び効率化に関し適切な成果が導き出されているものと評価する。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、6項目（ウエイト考慮後10項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②第三者評価を適切に受信するとともに、社会連携・社会貢献の取組について、高い評価を受けたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
- ・大学基準協会の認証評価を受審において「基準に適合している」と認定されるとともに、長所としての特記事項に、展覧会・演奏会・サービ斯拉ーニング等の地域貢献活動の充実があげられた。
- 情報公開や情報発信の推進
- ・OGであるイラストレーターの描いた大学案内の表紙等のデザインが好評であることから、他の印刷物の表紙にも可能な限り採用し、統一イメージでPRしている。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	1				1
情報公開・ 情報発信	5(4)			4(3)	1(1)
合 計	6(4)			4(3)	2(1)
ウエイト考慮 後の合計	10			7	3

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、6項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・大学基準協会の認証評価の認定は、これまでの大学の実績と地域貢献活動の賜だと思ふ。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、13項目（ウエイト考慮後17項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備の工事施工に関して、学生の学習環境と安全の確保に務めているとともに、進捗により歩道・迂回路等の変更が生じる中で、変更の周知に加え、火災・地震発生時等の避難経路についての確認を徹底していること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
- ・工事施工に際しては、学生が学習するキャンパスで並行して工事を進めることから、進捗状況や歩道・迂回路の表示、学内徐行の徹底、休日利用による騒音対策など、学生の学習環境と安全の確保に最大限の配慮をした。
- 大学の安全管理
- ・熊本地震の発生を受けて、教授会で安否情報の集約、今後の地震対応（震度別）、火元及び残留者なしの確認を徹底するとともに、12月に避難訓練を実施した。
 - ・キャンパス整備工事の進捗状況に合わせて、教授会で避難経路、集合場所の確認を行っている。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	4 (4)			3 (3)	1 (1)
安全管理	5			4	1
人権啓発推進	4			3	1
合計	13 (4)			10 (3)	3 (1)
ウエイト考慮 後の合計	17			13	4

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、13項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・キャンパス整備が始まったことにより学生の学習環境と安全確保に考慮したことは大いに評価する。今後も事故のないよう最大限の配慮を継続してほしい。
- ・大学全体の業務運営に関しては、学長のリーダーシップのもと、学内スタッフの努力のもと適切な成果が導き出されているものと評価する。